■市立みやび青葉公園で「雨庭づくり体験」を行いました

令和8（2026）年２月11日（水・祝）、武蔵野市立みやび青葉公園にて「雨庭づくり体験ワークショップ」を開催しました。

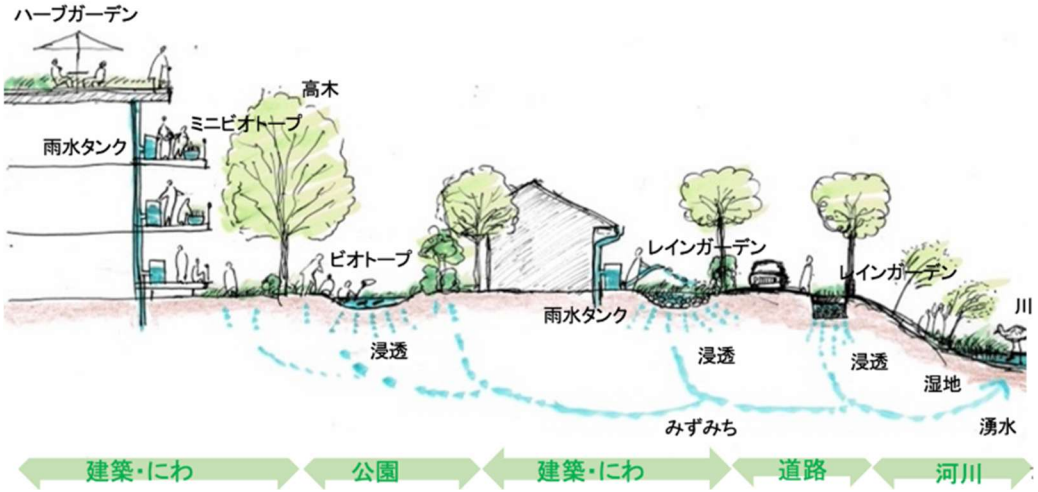
本ワークショップでは、武蔵野市の下水道事業や流域治水、グリーンインフラの講義を行い、現地で雨庭づくり体験を行いました。

実施概要

〇日時： 令和8（2026）年２月11日（水・祝） 午後１時から5時まで
〇場所： 吉祥寺北コミュニティセンター、市立みやび青葉公園
〇主催： 武蔵野市
〇企画・運営： 株式会社ハビタ

■下水道事業や流域治水、グリーンインフラの講義

前半は、市職員及び専門家の株式会社ハビタから、武蔵野市の下水道事業や流域治水、グリーンインフラの講義を行いました。



（グリーンインフラが生み出す、水、人、生きものにも優しいまちのビジョン（絵：（株）ハビタ））

【参考】グリーンインフラの定義（国土交通省 HP）

グリーンインフラとは、自然の多様な機能を活用した社会資本であり、将来にわたり持続可能で魅力ある国土・都市・地域づくり及びウェルビーイング向上に貢献するもの。これは、人と自然の関わりから形成されるものであり、戦略的な計画、持続的な維持管理、幅広いステークホルダーの参画などを通じてより大きな効果の発現が期待できる。

■雨庭づくり体験

今回のワークショップでは、内水氾濫リスクの高い吉祥寺北町1、2丁目の中にある、市立みやび青葉公園の2箇所で雨庭づくり体験を行いました。

1箇所目：雨庭A（施工前）

2箇所目：雨庭 B（施工前）

作業1：雨庭壁面の整形

雨庭づくり体験のはじめの作業は、計画した形状どおり、竪穴（たてあな）を形成することです。

ワークショップ前に予め重機により掘削を行ったうえで、ワークショップ当日、参加者がシャベルを使って竪穴（たてあな）の壁面を丁寧に整形しました。

作業2：竪穴（たてあな）底面への充填材打ち込み

次に、竪穴（たてあな）の底面に焼き杉の杭を打ち込み、その周囲に枝・落ち葉・炭・ぐり石などを充填しました。雨水を効率的に深層へ導く効果を期待して行いました。

（雨庭 A の様子）

（雨庭 B の様子）

作業3：砕石層の設置

砕石層として、100～200 ミリサイズのぐり石を設置しました。ぐり石の隙間には落ち葉や燻炭材を充填しました。ぐり石の間隙に雨水が浸み込むことに加え、土壌改良を期待して行いました。

（雨庭 A の様子）

雨庭 B には、砕石層の表面を稲わらで被覆しました。稲わらは、細かな土砂がぐり石の隙間に流入することや、踏圧を抑制することを期待して行いました。

（雨庭 B の様子）

作業4：植栽の植え付け

植物の生育を助ける改良土を表面に覆土したうえで、植栽を植え付けました。

作業5：仕上げ作業

ワークショップではすべての工程を終えることはできなかったため、後日、仕上げを行い、雨庭が完成しました。

（完成した雨庭 A）

（完成した雨庭 B）

■参加者の声：体験を通じて見えた「雨庭」の可能性

公園での現地作業後に、ワークショップの締めくくりとして、参加者同士で感想を共有しました。

参加者からは、以下のような声が寄せられました。

「雨庭がもたらす効果について新しい知識を得ることができてよかった。子供からシニアまでが参加した今回のワークショップを通じて、年齢を問わず関われる点に、コミュニティとして雨庭を作る意義や可能性を実感した。」

「雨庭については今回のワークショップで初めて知ったが、これらの地道な作業の積み重ねで作られていることを、身をもって理解できた。大変ではあったが、実際に携わることができて面白かった。」

「地域の治水対策に関われる有意義な取り組みだと感じた。雨庭の種類や特性について詳しく学び、身近にできる貢献があると分かった。」

■まとめ

今回のワークショップは、参加者同士が雨庭づくり体験を通じて、「人のつながり」を育む貴重な機会となりました。

企画を担当した株式会社ハビタは、こうした取り組みが一時的なイベントに終わらず、地域住民が愛着を持って管理し続けるような形に育っていくことを提案しています。

武蔵野市では、今回のワークショップを契機に、より一層の治水対策につなげていきます。